

平成 24 年度第 4 回経営会議 結果概要

- 1 開催日時：平成 24 年 9 月 4 日（火）10:55～11:50
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

議題 1 予算編成プロセスの見直しについて

【西川財政課長】（資料 1 に基づき説明）

資料の補足として、政策的経費の対象については、現在調整中であるが、大規模臨時的経費は対象外とし、個別検討項目は、何らかの形で対象経費に含める方向で検討している。また、公共事業については、該当部局と協議を続けているところである。

【藤本地域連携部長】

事務事業で判断すると、負担金のように優先度 A と判断する部分と優先度 C と判断する部分と複数の優先度が付くこともありえる。そのような場合、事業を組み替えてもよいのか。

【嶋田総務部副部長】

A に該当する部分を別の事務事業に移すということはある。

【植田副知事】

事務事業を移すことはあるが、1 / 3 ずつの割合は守らないといけない。

【真伏教育長】

義務的な経費については、要求前に整理して欲しい。そうしないと義務的な経費ばかりが高い優先度に並ぶことになる。

【嶋田総務部副部長】

義務的な経費の取扱いは、総務部と各部局と意見が分かれているものもあり、要求前に整理するのは難しい。

【稲垣総務部長】

平成 25 年度予算編成をしていく中で、義務的な経費は整理されていく。

【植田副知事】

厳しい財政状況なので、義務的な経費が並ぶ予算になる。

【東地企業庁長】

新しい予算編成プロセスだと、総務部主導になりすぎて、各部の判断、独自性が出しにくくなるのではないかと。

【植田副知事】

知事と部局長が協議する場が 3 段階ある。

【竹内環境生活部長】

複数の部で構成している施策の取扱いはどうなるのか。優先度判断の協議

は、主担当部のみで行うのか。関係部局の意見を聴く場も設けて欲しい。

【西川財政課長】

2回目の知事と部局長の協議の場で、優先度判断の協議をしていくことになるが、関係部局長に集まっていただくことにするかどうかは、今後、検討していきたい。

【北岡健康福祉部長】

平成25年度当初予算編成での優先度Cの事務事業の査定は、施策の観点からも査定されるのか。

【西川財政課長】

施策の観点からの査定ではなく、事務事業そのものの査定である。ただし、2回目の知事と部局長の協議の場で、優先されるべき施策が出てくるかもしれない。

【稲垣総務部長】

平成25年度当初予算編成は、基本は義務的な経費を配慮しつつ事務事業を査定していくことになる。

【藤本地域連携部長】

県民カビジョンに記載している事業を優先度Cに位置付けられないのではないかと。

【植田副知事】

県民カビジョンに記載してある事業でも年度間調整は出来るのではないかと。

議題2 地域機関等の見直しについて

【田中総務課長】（資料2に基づき説明）

【藤本地域連携部長】

県民防災事務所の名称は、防災以外の業務はしていないようにも見える。地域支援局とか、再度、検討するべきではないかと。

【竹内環境生活部長】

県民防災事務所に環境の名称を付ける検討も必要ではないかと。

【梶田農林水産部長】

農業改良普及センターの名称は、外部からも残すべきという意見も多く、慎重な検討が必要。

【東地企業庁長】

組織運営の見直しに関連して、地域機関の室長という名称は違和感があり、見直しを検討するべき。

【植田副知事】

今後も十分な議論を行うこと。